

小松小に 屋内運動場が完成

小松小学校の屋内運動場が完成し、3月15日に児童、関係者約200人が出席して竣工式が開催されました。昭和43年に建設された旧屋内運動場は、老朽化が進んでおり危険性を解消するために改築されました。



新しい屋内運動場は、総事業費約3億1千万円。鉄筋コンクリート造1階建、延べ床面積1096㎡で旧屋内運動場の2倍を超える広さがあり、天井も高く、十分な運動スペースが確保



されています。また、保護者や地域住民も利用できるように、ミーティングルームや更衣室、多目的トイレなどを備えるクラブハウスを併設。児童の教育環境の充実とともに、社会体育の振興・生涯学習など地域住民の活動拠点としての役割も担っています。

竣工式では、町長式辞、教育長による工事経過報告、工事関係者への感謝状贈呈、来賓祝辞などに続いて、6年生の綿引仁美さんが「完成した体育館を見て、すごく大きいな、カッコいいなと思った。何よりもうれしいのは、この体育館で卒業式ができること。私たち児童は、授業や地域の方とのふれあいなどで活用し、大切に使っていきたい」と児童を代表してお礼の言葉を述べました。また、児童が完成の喜びや感謝の気持ちを作詞したオリジナルの歌を全員で発表しました。さらに、児童による作文や詩の暗唱、ソーランの踊り、小松重盛太鼓の演奏などが式典後のエキジビションとして披露されました。



こころの 健康づくり講演会

3月8日に常北保健福祉センターで、いはらき思春期保健協会の井川三千子先生による「親のこころ、子のこころ」と題したこころの健康づくり講演会が行われ、子育て中の方約30人が参加しました。

井川先生は「乳幼児期には子どもを十分に甘えさせ、言葉ではなく体と体での触れ合いで親と子がしっかりとかわることが大切」と話し、また「心の中には、厳しい父性・優しい母性・親の心・大人の心・子どもの心の5つがある。場面ごとにどの心で子どもに対応していくか、自分の心をうまくコントロールしていくことが必要」などわかりやすく子育てのアドバイスをしてくださいました。

参加者からは「講演を聴き、子どもへの普段の接し方を客観的に考えることができた」「今後の子育ての参考にしていきたい」「他の人の意見、考え方などを聴けて勉強になった」「などの感想がありました。」



愛育会ひなまつり

桃の節句にちなみ、母子愛育会ひなまつりが、2月27日、常北保健福祉センターで行われました。母子愛育会とは、子育て中の親子を支援するため自主的に活動している団体です。就園前の在家庭のお子さんとその保護者、約40組の親子が参加しました。

今回親子で挑戦したのは、ひなまつりアレンジ工作。牛乳パックや折り紙に加え、生花を使ってフラワーアレンジメント風の華やかなひな人形ができました。工作の後には、歌や紙芝居の読み聞かせが行われ、また、愛育会特製の美味しい「愛育汁」がふるまわれました。

参加した保護者からは「いろんな親子と話す機会が持ててよかった。子どもも同年代の子たちと仲良くなれて楽しんでいた」など参加してよかったとの感想が多くみられました。



スケート教室を開催

3月3日(土)、町内の小学生を対象に笠松運動公園スケート場で、城里町スケート教室が開催されました。初心者から経験者まで127人の参加があり、初めはなかなか滑れなかった子ども最後には一人で滑ることができるようになるなど、皆さんスケートを十分に楽しんだ様子でした。



公民館合同ステージ発表会

2月25日(日)にコミュニティセンター・城里において、「公民館合同ステージ発表会」が行われました。当日は、天候にも恵まれ、常北地区・桂地区より公民館講座及びサークル活動団体を中心に、30組約300人が参加し、日ごろの練習の成果を披露しました。客席からは、惜しめない拍手が最後まで鳴り響く、華やかな発表会となりました。



城里町子ども会大会「演劇鑑賞会」を開催

城里町子ども会育成連合会主催による、平成18年度城里町子ども会大会「演劇鑑賞会(演目『あらしのよるに』作・木村裕一)」が、2月18日(日)にコミュニティセンター・城里ホールにおいて開催されました。

出演は、水戸芸術館劇団ACMの皆さんで、児童340人、保護者160人のあわせて500人の参加がありました。

俳優の演技や光・音を巧みに使った演出に、参加した児童の皆さんは大変感動していました。観賞後、「参加してよかった」「とてもおもしろかった」「本とは違った感じよかった」「または非演劇を鑑賞したい」という声が多数ありました。

今回の演

劇鑑賞を通じて、児童の皆さんがいろいろな発見をし、豊かな想像・創造力を引き出すきっかけになったものと思います。



水戸芸術館劇団ACMによる公演